

原子力リスク研究センター（NRRC） 第15回 原子力経営責任者会議 議事録

1. 日 時：2022年11月9日（水）13:00～15:00
2. 場 所：電力中央研究所（大手町本部）役員大会議室、WebexによるWeb会議
3. 出席者：
 - 主査：アポストラキス（NRRC）
 - 委員：舟根（北海道電力）、加藤（東北電力）、福田（東京電力HD）、伊原（中部電力）、福村（北陸電力）、松村（関西電力）、北野（中国電力）、川西（四国電力；山田代理）、豊嶋（九州電力）、劔田（日本原電）、大田（日本原燃；松田代理）、萩原（電源開発）、朝岡（NRRC）
 - オブザーバー：中熊（電事連）、尾野（原安進）、魚住・富岡（ATENA）、メザーブ（NRRC）
 - 幹事：古田（NRRC）
 - NRRC幹部：吉田、米田、岩島、桜本、西、松山

4. 議 題：

(1) 2023年度 研究計画について

NRRCより、2023年度研究計画について説明した。

(2) NRRC 活動状況

NRRCより、「原子力リスク研究センターの活動状況」について報告した。

(委員からの主なご意見)

- ・ NRA と CNO の意見交換会の場で、AOT の延長や、OLM におけるリスク情報の活用
の事例を提案し、これをその場で議論した結果、これを進める指示が出た状態だが、
実務ベースで前に進んでいない。
- ・ 具体的なリスクを使った LCO や AOT の話から、規制での PRA 利用への道が開くの
ではないか。
- ・ リスク情報に係る概念を規制に理解してもらったうえで、我々は利用可能な PRA 技術
を、ROP や色々な実益のあるエリアに使っていきたい。
- ・ 各社が個別に行うよりも、NRRC と一緒に協力し、ATENA も通して原子力規制委員
会と議論し、新しい規制の考え方や最適の設備の在り方など、そういうことを議論し
ていくことをロードマップのようなもので描いていく必要があるのではないか。

(所長からの主な発言)

- ・ これまで長い間にわたりリスク評価、リスク情報活用ということについて議論し、規
制におけるリスク活用ということも議論されてきたにもかかわらず、リスク情報活用
を進めるといった明確なメッセージが示されていない。

- ・ 米国NRCは、かなり以前にそのような政策声明を出している。委員会からPRAを進んで活用すべきだという明確な指示をNRA職員と産業界へ向けて出すことに価値がある。
- ・ 10月26日のNRAの公開会合で山中委員長は、今後進める5項目の5つ目に「継続的改善」があり、その中にリスクコンセプト、リスク概念が含まれている、ということだった。私は、このリスク概念は単なるSafety Goal、安全目標より広い概念だと思う。ということから、いくつかPRA活用に向けてやるべきことを我々も判断する必要が出てきたと思っている。

以 上